

残暑お見舞い申し上げますー“東北の軽井沢”気仙沼から

こちらは梅雨明けが、8月4日でした。気温が日中は30℃を超えます。しかし、しのぎやすいです。冬は厳寒を運んで来る潮風が、夏は打って変わって涼風です。夜はクーラーではなく、扇風機で過ごしています。夜中に窓を開けて寝ると、風邪をひきそうです。

私は、インドの熱さは大丈夫ですが、都会の暑さには弱いです。8月下旬に帰京しますが、上野駅に降りたら、熱中症で悶絶するのではないかと心配です。私は気仙沼を「東北の軽井沢」と自称しています。避暑地の出来事は残念ながらまだ起きていませんが。

「復興五輪」再び訴え 東京都「強い看板なく」

以下、8月9日付け「朝日新聞」朝刊の記事を引用します。

「2020年五輪の開催都市が決まる9月の国際オリンピック委員会（IOC）総会に向けて、東京が招致活動で「震災復興」を強調している。海外の放射能などへの不安から一時は看板を下ろしたが、日本で開催する意義をより強くアピールする狙いだ。被災地では期待と疑問の声が入り交じる。」

「「復興」は両刃の剣でもある。12年2月にIOCに出した申請ファイルでテーマの1つに「震災復興」を掲げたが、その後、震災による（福島第一の）原発事故での放射能（汚染）や電力不足を懸念する声が海外から上がり、今年1月に提出した立候補ファイルでは、いったん「復興」の文字が消えた。」6月に行われたIOCのプレゼンテーションでも、「震災復興」は言われませんでした。

被災地割れる賛否

「被災者の思いは分かれる。仮設住宅に住み、仮設店舗で美容院を営む岩手県釜石市のYさん（61）は「被災者の活力の一助になるのでは。被災地が五輪をきっかけに注目されるのは良い」。一方、宮城県南三陸町で衣料品店を営むCさん（69）は「被災地に経済効果はほとんどないでしょう。関心が五輪にあって、むしろ被災地は忘れられる」。同町で喫茶店を営むIさん（55）も疑問を抱く。「仙台や福島で開く東北五輪なら復興のためと胸を張れるだろう。でも、なんで東京五輪なのに復興をうたうのか」

東京五輪招致と「復興五輪」の政治的利用

私は、後者の被災者の方々の意見に賛成です。

第一は、三陸から東京までの距離の遠さです。気仙沼からは、仙台が一番に近い大都会です。東京は遙か彼方です。気仙沼でも、多くの人達が、世界水泳や世界陸上をテレビで見ていると思います。しかし、五輪の日本人選手を応援するにしても、東北楽天や仙台育英高校を応援する程には、応援しないと思います。

第二は、猪瀬都知事を初めとしたJOCの関係者やアスリート達が、被災地のことを

思っているとは思われません。私は東京五輪招致の「銀座でホコ天」とか「わき毛」がどうかのポスターを見て、そのノーマンぶりに心底情けなくなっていました。被災地のことを書いたポスターは皆無でした。（確かに、震災後には、多くのアスリート達が被災地に応援に足を運んでくれました。しかし、最近ほとんど来たという記事は見当たりません。）

気仙沼で東京五輪招致のポスターを貼っているのは、市役所だけです。それも、市民が来る1階の市民課ではなく、2階の秘書広報課の前です（東京都派遣の職員のためのアリバイかも）

放射能汚染水の海への流出、海外で懸念―「復興五輪」までも取り消しか

放射線能汚染水の海への流出について、原子力規制委員会は、「レベル3」に格上げをしました。佐藤福島県知事は、「国家非常事態」を宣言しました。海外では懸念が広がっています。東京招致にはマイナス評価になるので、「復興五輪」はまでも取り消しになるかもしれません。

東京圏に住む方達は、東京五輪招致について、東京と三陸では大きな格差があることについて、不思議に思うかもしれませんが？（東京都はいち早く、被災地のガレキを受け入れたり、被災地にも多くの都職員を派遣してくれています。このことについては、私は感謝をしています。）

【気仙沼市役所のポスターです。「復興五輪」は一言も無し】

